

フクタ ノリヒデ
福田 規秀

短期大学部保育科・教授
修士／聖和大学

主な研究業績

■「保育所保育指針改定への若干の考察」『兵庫大学短期大学部研究集録』No. 43 2009

■「保育者養成と学生支援」『兵庫大学短期大学部研究集録』No. 42 2008

■「保育者の役割についての一考察」『兵庫大学短期大学部研究集録』No. 41 2007

研究テーマ

自己表現を触発する道具立て

概要

子どもの創造性や想像性の豊かさは疑うところではないが、その思いや内実を我々が知るには何らかの形で外に表してもらうことが必要である。子どもの立場で言えば、常に自分の思いを表すための素材となるものを探しており、それを基にして表現する気持ちを抑えることが出来ないといったところであろうか。そう考えれば、子どもたちが家庭で生活するにしても、園生活をするにしても、そこで適当な道具立てに出会えることが肝要であり、子どもたちはそれによって自由な表現活動を展開していく。その過程において、知識を吸収し、それを試し、それを他人に自慢し、突っ込まれ、再考し、本当の意味で自分の学びに結びつけていくと思われる。こうした子どもの自己活動を適当な道具立て（子どもにとっては遊具）によってサポートすることをずっと研究のベースにおいて、ここまで活動を続けてきた。

研究の展開のひとつの方向性は、やはり子どもの気持ちをくすぐるような遊具に出会い、それを子どもに提示しながらその自己表現の様子を観察し、日常の保育に活かすことである。また別の方向性は、子どもをサポートするおとなにこんな遊具があるということを知ってもらい、その自分の経験を基に子どもに適当な道具立てを提供してもらうことである。さらに自分を表現するのは何も子どもだけではなく、おとなも自分を表現するのに適当な道具立てが必要であり、この点を学生や一般の方との関わりの中で考えることも楽しみにしている。ローテク、ハイテクを駆使して、自分を表現することは大事であり、それを他人に分かってもらうことはワクワク、ドキドキし非常に刺激的であることを是非知ってもらいたい。

応用分野

- 保育現場、子育て支援の現場担当者や保護者への協力・助言
- 子どもの活動現場での協力や助言

共同研究へのニーズ

- 保育現場での環境開発
- 子どものためのワークショップ
- メディア環境が触発する自己表現への考察